

環境報告書2015 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成26年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ( )内は 実績値
教育	環境マインドの育成	「実践・現場重視型の環境教育(ESD)」の充実	評価:生物資源学部で環境教育の充実に向けた検討および実施が行われ充実に繋がっています。	
			根拠 生物資源学部 授業科目「環境教育実践」を担当する	(2回)
	環境教育カリキュラムの支援	学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	評価:教育学部と工学部、地域イノベーション学研究科で環境教育プロジェクトについての教授会などを活用し共有され連携が進んでいます。	
			教育学部 国際環境教育研究センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部内で共有する。(メール等活用し報告)	(11回)
			工学部 国際環境教育研究センターの委員会審議内容を、工学研究科教授会で報告、情報を共有し、支援と連携を促進する。	(11回)
地域イノベーション学研究科	根拠 エアコンのリモコンの近傍に冷暖の適切な設定温度を掲示し、構成員全員が意識し行動に努める。	(2回)		
	博士前期課程と博士後期課程の研究内容に関するプロジェクトマネジメント調査書の検討事項の一つに環境問題やエネルギーコストを意識する項目を追加する。	(1回)		
スマートキャンパスで導入した施設を最大限に有効活用するEMSの最適運用の構築	CO <sub>2</sub> を削減するためにキャンパス内のエネルギー利用を最適化する方法を明らかにする	評価:地域イノベーション研究科で環境研究成果について教授会で共有し、教員HPなどが最新に更新を呼び掛け報告が活発化しています。		
地域イノベーション学研究科	学内での節電行動を通して、各コミュニティからのエネルギー需要を調整するとともに再生可能エネルギー等の活用を統合することによって、CO <sub>2</sub> 削減量を最大化する方法を研究する。	根拠	(6回)	
		教育学部	環境報告書に掲載する環境教育の25年度成果をまとめ、部局担当の国際環境教育研究センター員に報告する。	(1回)
		地域イノベーション学研究科	大学の社会的責任(USR)としての環境イノベーションに関して、教職員と学生が話し合う場を提供する。	(1回)
キャンパス及びその周辺地域社会と環境コミュニケーション力強化	地域社会と連携による、環境コミュニケーションの創出	評価:教育学部では、環境報告書2014の作成のための前年度の活動成果をまとめて報告書作成に活かされています。		
		根拠 教育学部 キャンパスや周辺の環境を活用し、地域の学校園を対象とした環境学習を実施	(5回)	
エネルギー使用量の合理化	エネルギー使用設備の合理化の実施	評価:工学部では、教室等の蛍光灯、機器等の電源オフの確認を行い、エネルギー使用量を削減に向けた活動が進んでいます。		
		工学部 各部局は、エネルギー使用量の削減の運用改善のテーマを定め実行。教室等の蛍光灯、機器等の電源オフの確認を行い、使用量削減を目指す。	(12回)	

体的取り組みに対する評価は、国際環境教育研究センター支援室が平成26年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。